

知れば、納得！ 女性ならではの特徴 女性の未来を育てることを共に考える上司は尊敬される

キャリアエラ 代表取締役 藤井 佐和子



●ふじい さわこ

1968年3月生。大手光学機器メーカー海外営業部勤務後、人材総合ビジネスのインテリジェンスにて女性の転職チームリーダーコンサルタントとして、女性の転職をサポート。現在は株式会社キャリアエラを設立し、キャリアコンサルタントとして、女性のキャリアカウンセリング、企業のダイバシティ、大学生のキャリアデザインをテーマとした研修や講演を行う。カウンセリング実績は13,000人以上。著書多数。近著に『女性社員に支持されるできる上司の働き方』（WA VE出版）。

<http://www.sawako-women.net/> <http://ameblo.jp/sawako-womens/>

ポイント

- ① 女性は物事を考えるとき、過去の事実、気持ち、憶測など、さまざまなものを関連付けて答えを導き出す「関連づけ脳」、人の感情に興味を持ち、共感しあう「共感脳」、「感情脳」が男性より発達している
- ② 女性はコミュニティを守る役割を太古の昔から担っていたので、縦社会より、横のつながりを重視する特性がある。生理的に嫌悪感を感じるのは「上の人と下の人に対する態度の違う男性」。対人関係の公平性を重視し、平等で公平、正義感のある男性に尊敬の念を持つ
- ③ 女性は子供のころ、チームで遊ぶ機会が少なかったから、役割認識、フォーメーションが見えづらいのかもしれない。若手の男性もゲーム世代、1人で遊ぶことが多かったので、女性と同じ特徴がある

管理職の悩みで多いのは、「女性部下との関わり方」

ある企業の若手研修の終了後に懇親会が催され、講師である私も顔を出す機会がありました。受講していた20代半ばの女性が、人事担当者にこんなことを言っていました。

「今後、男性を採用するときは、面接で家事ができるか、聞いてくださいよ」

気になったので、早速会話に参加して、いろいろ聞いてみると、こんなことを言っていました。

「いまの世の中、男性に多くの収入は期待しません。しかも、その収入のなかでやりくりするなんてことも考えづらい。だったら、2人で働いていくのが現実だ。でも、共働きとなると、女性に家事や育児の負担がかかるのは、不公平。これからは、家事や育児に参加してくれる男性を結婚相手として探すのが大事なんです——」

バブル時代を経験した男性には、想像しづらいか

もしれませんが、特に20代から30代前半の女性の結婚や働くことへの価値観、考え方は、どんどん「進化」しています。

それを裏付けるかのように、内閣府が実施した、男女共同参画に関する意識調査で、こんな結果が報告されました。

「妻にはできるだけ稼いでもらいたい」と答えた男性は、18.3%、一方、「結婚したら、自分もできるだけ稼ぎたい」と答えた女性は、46.9%。この数字には、大きく、男女意識の差が生じているのが、明らかです。

私は日々、ダイバシティ施策の一環である、女性活躍推進をテーマに、さまざまな企業でコンサルティングや研修・講演を行っています。主にお声掛けいただく理由として、延べ13,000人以上の女性のキャリア相談を行っている実績があり、女性の生の声を知っているから、と言われることが多いです。実際、女性のカウンセリング業務に携わって20年近くなりますが、年々、相談内容が変化してくるのを